

# ひかりのこ

10月園便り  
認定こども園  
聖ミエル幼稚園  
2021年9月24日

## 月主題：はずませて

### 「人の土台作り」

朝日新聞9月11日（土）朝刊の「フロントランナー」のコーナーに、「里親・ファミリーホーム」運営の廣瀬タカ子さんの記事が出ていました。千葉県郊外で様々な事情から親元で暮らせない子どもたちを夫の正（まさし）さんと共に育てて31年にもなる方です。彼女は少女時代、父の再婚で家族の形が変わり、叔父叔母のもとに預けられ、苦しみ、自暴自棄となりました。そして、生きる意味を問う中で、いつか里親になろう、と考えるようになったということです。「私なら子どもの気持ちができるかもしれない。」妊娠中の16歳の女の子、ひどい虐待を受けてきた子。気を引きたくてうそを重ねる中学生。いつか親元に帰ったり、自立して巣立っていきます。「私たちのことは忘れていいの。深く愛された経験が子どもに宿ればそれでいい。強く生き抜く力になるから。」と、廣瀬さんは言います。

現在、幼稚園の新しい園舎建築の工事は、ちょうど土台作りが行われています。土が深く掘られ、コンクリートが溝に流し込まれ、たくさんの鉄筋が組み込まれ、毎日毎日丁寧に丁寧にその作業は続いています。鉄筋コンクリートの建物は、頑強で、大きな地震にも耐え、50年も60年もびくともしません。その基礎は、この丁寧に土台作りにあるのだ、ということを感じます。

聖ミカエル幼稚園が中心に掲げている「キリスト教保育」はまさに、この基礎工事と似ています。ご家族と手を携えて、子どもたちを大切に丁寧に、愛をもって育てること。この幼児期にこそ、「深く愛された」経験を子どもたちに宿すこと。それこそが10年、20年、30年、50年、人生を強く生き抜く土台になるのです。

園長 渡部 良子

## キリスト教保育

「ら～ら～ら～♪らら～ら～♪」

オフコースの「言葉にできない」は、くり返す旋律と歌声だけで切なさや暖かい想いを伝えてくれる世代を超えて心にひびく歌です。「行動は言葉よりも雄弁」という英語の格言がありますが、私たちは時に言葉にも行動にも表すことができない複雑な心情に陥る時があります。子どもの成長という未知の課題に向き合う立場にあれば尚更です。彼らの健康・安全を願い、その成長を見守る日々の中で、どれほど努力したとしても思い通りにいかないこともあるでしょう。

そんな時、「祈り」は誰にでもゆるされた心の声を自分の外に吐き出す方法です。信仰の有る無しを問わず、その声の行き先は、目に見えない力ある存在、自らの思いを、ありのままに聞いてくれる最高のカウンセラーです。祈るためには作法も規則もありません。守らなければいけないルールはたった一つ、あなた自身の心に正直になることだけです。その包み隠さずに差し出した心の声は、祈りに乗せて聞き届けられることでしょう。

「わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、  
“霊”自らが、言葉に表せないうめきをもって  
執り成してくださる」 （ローマ8:26）

チャプレン 司祭 上平 更

